

# 目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第82号 2019年3月

発行人：後藤 克彦 編集長：猪名川 一雄 事務局長：金井 豊男  
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-22-6 Tel 03-3713-1684

## 2019年新年会を開催

2019年1月20日(日)、ホテル雅叙園東京で目黒稲門会新年会が開催されました。

当日は来賓として、青木英二・目黒区長、海老沢勝二・元NHK会長、岡本宏一・早稲田大学キャンパス企画部長兼校友会常任幹事ならびに梅原竜司・早稲田大学総長室社会連携課長にご出席頂きました。出席者総数72名(来賓4名、会員・ご家族66名、学生2名)。



第1部講演会では、海老沢勝二氏(早稲田大学評議員・元NHK会長)を講師に招き、「早稲田と人材教育」と題した講演が行われました。海老沢氏のジャーナリズムの実務経験に基づいた、母校の改革への提言を拝聴し

ました。(講演要旨後述)

講演の後に場内は休憩に入り、午後5時からの第2部懇親会は、再び石川副事務局長の司会により、始めに後藤克彦会長より新年の挨拶がありました。

### <後藤会長挨拶要旨>



明けましておめでとうございます。今年は記念すべき年になります。平成から新しい年号に変わります。早稲田大学では新記念会堂でもある早稲田アリーナがオープンになります。そして目黒稲門会も設立20年を迎えます。1999年1月30日に眞仁田初代会長の元で“明るく 楽しく 元気よく”をモットーにして設立されました。今年の7月には総会と記念のイベントが予定されております。すでに委員会では記念

のイベントのアイデアを出し、進めております。是非、楽しみにして頂きたいと思っております。会員の皆様、ご家族の皆様、そしてここに御列席の皆様が健康で楽しい年になることを祈念いたします。今年もよろしくお願い申し上げます。

続いて来賓の早稲田大学・岡本宏一部長ならびに梅原竜司課長より挨拶がありました。挨拶を通じて、西原春夫12代総長も制定に関わった平成の元号への思い出、早稲田アリーナ竣工にあたって目黒稲門会から支援したことに対して、感謝の意を述べられました。



岡本部長



梅原課長

続いて、丸山忠生会員による乾杯の発声で懇親会が始まりました。



懇親会の冒頭では、米寿を迎える千野逸平会員を祝い、花束が贈呈されました。

その後、新入会員が壇上にて紹介されました。

招待現役学生2名の紹介では、北島佳奈さん(人科3年)、千野愛実さん(人科2年)が紹介され、所沢キャンパス祭の実行委員として、学園祭の紹介と挨拶を行いました。

しばらくの歓談に続き、青木英二・目黒区長が会場に到着、後藤克彦会長より目黒区サクラ基金に対

する寄付金の目録が青木日黒区長に手渡されました。

(ボランティア部会報告を参照)

続いて、狩野俊夫副幹事長より設立20周年記念シャツ販売の案内、小杉哲ボランティア部会長よりボランティア募金活動への一層の協力をお願いがありました。



盛会の中、司会より校歌斉唱が告げられ、松田哲也会員による指揮で都の西北を斉唱。

中締めは、市瀬一江幹事の挨拶と参加者への謝辞の後、お開きとなりました。

(笠谷 記)

#### <海老沢勝二氏 講演要旨>

これからの時代、我が国は一層、教育と人材の育成に力を入れていく必要がある。

早稲田大学の課題として、現状は1都3県すなわち東京近辺出身の学生が7～8割を占めており、より幅広く、地方から優秀な受験生を受け入れる仕組みを構築すべきと考える。伝統を守りつつも、時代の変化に応じて柔軟に改革を進めなければならない。

たとえば佐賀における全寮制を視野に入れた試みでは、地域の特性に応じた形で、優秀な生徒、質の高い教員による学びの在り方を模索している。

大学においては、田中愛治総長がこれまでの方法論を脱し、早稲田の改革を進めるために、創立150周年を見据えたVision150を掲げており、世界大学ランキングのベスト10に入れるような教育機関を目指している。

私はNHKにおいて、政治・国際情勢の動向を見つめてきた。明治から今に続く憲政史上、早稲田からは7人の総理大臣をはじめ、多くの国家のリーダーを輩出してきた。未来のために優秀な人材を育成することこそ早稲田にとって大切である。

平成という時代を振り返れば、多くの災害に見舞われはしたものの、戦争はなく、全体として平和な30年であった。陛下も安堵されていることと思う。しかしながら世界を見渡したとき、至るところで課題が山積みである。

国際社会においては、現代社会を見る上で、歴史を学ぶことは必須の教養である。我が国ではそのような大局観をもって、鳥の目で俯瞰し、戦略的に舵

取りを進めるような意識が国民性の中に十分に育っていないのではないか。海洋国家として、教育力の向上を通じて我が国の力を養うことが肝要である。

## 新年会出席者(敬称略、五十音順)

(来賓)

青木 英二・日黒区長

海老沢勝二・講師 元NHK 会長、早稲田大学評議員

岡本 宏一・早稲田大学キャンパス企画部長兼校友会常任幹事

梅原 竜司・早稲田大学総長室社会連携課長(招待現役学生)

北島佳奈(人間科学部3年)、

千野愛実(人間科学部2年)

(会員・ご家族)

浅海敏之、荒瀬修一郎、安藤 孝、安藤虎雄、安藤嘉昭、石川智子、石川純子、市川 亘、市瀬一江、市瀬達夫、伊藤 悠、猪名川一雄、井村正陽、岩崎正夫、鶴野洋治、海口昭治、大内久美子、大久保健治、大杉邦雄、大竹一子、大野利幸、奥村忠男、小倉利允、笠谷興一朗、梶 恵作、加瀬祐子(※1)、金井豊男、狩野俊夫、川井信義、川崎秀一、川崎真樹子、小杉 哲、後藤克彦、後藤眞由美、佐伯文子、佐久間 喬、島田久家、高橋圭吾、田島順一郎(※2)、田添麻友、橘かがり、地田博昌、千野逸平、手塚仁雄、外岡 明、永井正孝、中上美代子、永田耕治、中西元樹、服部尚彦、林田雅敏、古矢美美子、堀井良造、牧野武夫、松田哲也、丸山忠生、宮村直身、村上 柁、村山 弘、森家一三、保井 正、吉田博行、吉田千代、吉野博明、吉本政治、吉本美恵、※1代理・茨木祐子、※2代理・田島清志



# 目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第81号 2018年12月

発行人：後藤 克彦 編集長：猪名川 一雄 事務局長：金井 豊男  
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-22-6 Tel 03-3713-1684

## 2019年新年会のご案内

2019年新年会を、1月20日(日)ホテル雅叙園東京にて下記の通り開催いたします。

平成最後の新年会です。そして新たな元号の元年を迎えるにあたり、更なる飛躍を誓う方、時代の節目に思いを馳せる方、1年を無事に過ごしたことに感謝される方、各々の新年があらうかと思いますが、同じ早稲田で学んだご縁を通じて集いましょう。

2019年、目黒稲門会は設立20周年を迎えます。おなじみの方も、ひさしぶりの方も大いに飲み、語り、皆で「都の西北」を高らかに歌いましょう。新年を祝うとともに、皆様の更なるご活躍を祈り、楽しいひとときを過ごしたいと思えます。

今回、海老沢勝二様(昭和32年政経卒)により、「早稲田と人材教育」と題した講演を予定しております。豊富な経験に裏付けされた海老沢様ならではのお話、どんな講演を伺えるか楽しみです。どうぞご期待ください。

講演の後には、懇親会にてゆったりと会員相互に交流をお楽しみ頂きます。

皆様には新年ご多用のこととは存じますが、お誘い合わせの上、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

### 記

1. 日 時：2019年1月20日(日)16時開会  
(受付開始 15時30分)
2. 会 場：ホテル雅叙園東京3階「シリウスの間」  
東京都目黒区下目黒1-8-1  
電話 03-3491-4111
3. 講 演：16時～17時  
講師 海老沢 勝二氏  
演題 早稲田と人材教育
4. 懇親会：17時～19時
5. 会 費：会員10,000円、ご家族5,000円  
当日会場受付にてお支払い下さい。
6. 同封の返信用はがきを、12月28日(金)まで  
にご返送下さい。

(笠谷 記)

### 講師プロフィール



海老沢 勝二氏

- 1934年 茨城県生まれ
  - 1957年 早稲田大学第一政治経済学部卒業  
日本放送協会(NHK)入局
  - 1982年 NHK 政治部長
  - 1988年 NHK 報道局長
  - 1991年 NHK エンタープライズ社長
  - 1993年 NHK 専務理事
  - 1997年 NHK 会長
  - 2005年 NHK 会長退任
- 現在の主な役職：  
日本相撲協会評議員会議長、  
早稲田大学評議員、  
日本音楽財団会長など

NHK会長時代には「放送は、異文化を理解するための架け橋である」という信念のもと、BS放送に取り組みました。ラジオからテレビ、インターネットと、メディアの変遷に伴いコンテンツは、益々、幅が広がり多様化し続けています。デジタル時代に必要とされる21世紀型能力を有する人材の育成が課題であり、裾野を拡大し全体のレベルを高める教育を行っていく必要があります。

講師の海老沢氏は、これまでの歩みを振り返り人材教育の大切さや異文化を理解し尊重する大切さを中心に興味深いお話が伺えるものと思います。

(後藤 記)